

適正規模及び適正配置に係る基本方針

(1) 9年間の学びの連続性や一貫性が伴った

「義務教育学校」による学校統合

→ 4つの学びを教育の柱に山ノ内町ならではの
魅力あふれる教育内容を最大限効果的に実践

(2) 地域コミュニティと学校が一体となった

「コミュニティ・スクール」の構築

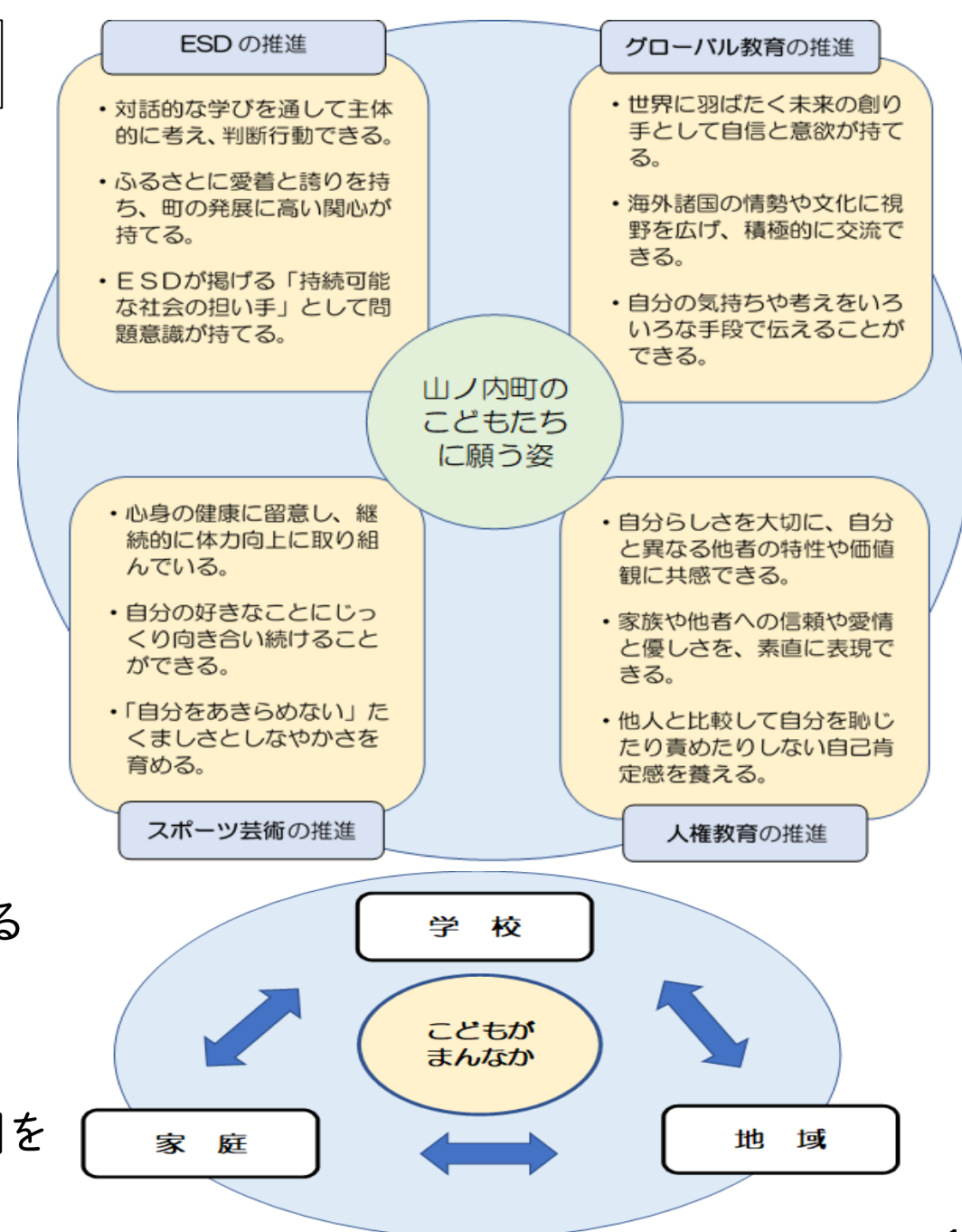
→ こどもたちや保護者、学校関係者、地域住民からも
意見を求めながら、町全体で支える学校づくり、学校運営

(3) 設置場所 山ノ内中学校敷地

→ 既存校舎を活用し、整備費用を抑え、児童生徒が活動する
敷地面積の確保、通学路の安全性を踏まえて選定

(4) 開校時期 令和12年4月

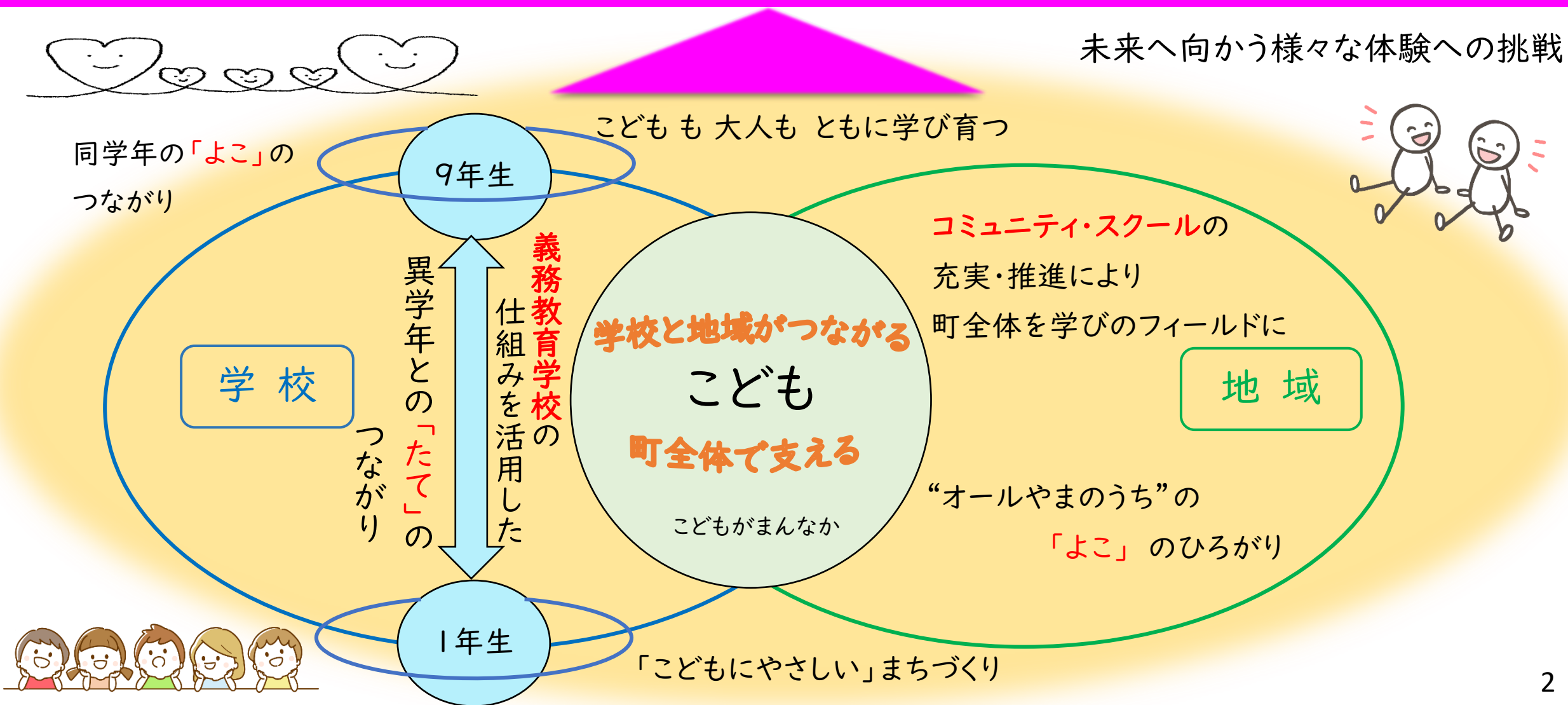
→ 新たな教育カリキュラムの構築、施設整備、閉校準備期間を
踏まえて開校を目指す



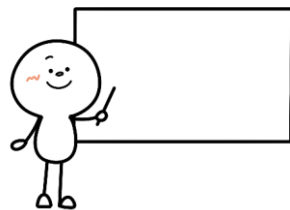
コミュニティ・スクールと義務教育学校を一体的に考える“町全体が学園”構想

大きなセーフティネットとして、「縦・横」立体的にこどもを包み込む「育ちと学び」の環境

こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら楽しく深めることのできる学び



義務教育学校



義務教育学校とは、小学校と中学校を一つにした学校のことです。小学校6年間と中学校3年間の義務教育9年間を一貫して教育する学校で、2016年に制度化されました。具体的には、1人の校長の下、一つの教職員組織で、9年間の学校教育目標を設定し、系統的なカリキュラムを編成・実施する学校です。

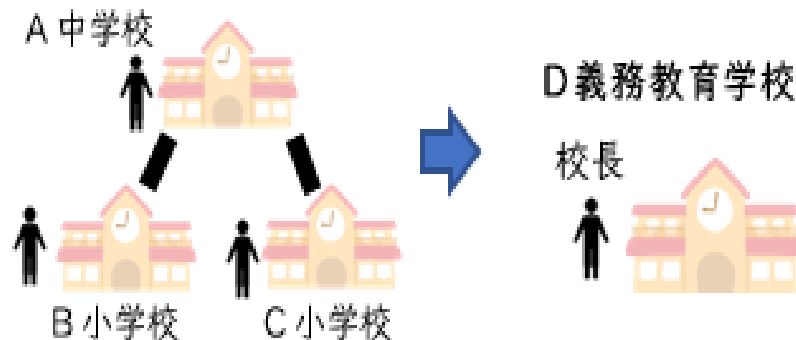
○義務教育学校の良さの例



- ① いわゆる「中一ギャップ」の緩和・解消が期待できる。
(学習、生活面等新しい環境への変化に対する不安の緩和。)
- ② 異学年交流で精神的な発達や社会性を養うことが期待できる。
- ③ 教育課程特例を活用し、自由なカリキュラムの編成ができる。
(『4つの学び』を柱に学校独自の教科が設定可能となる。)
- ④ 学年段階の区切りを「5・4」や「4・3・2」など柔軟に設定できる。
(指導内容の入替え、前倒し等により先を見据えた学習が可能。)
- ⑤ 教科担任制や乗り入れ授業等による指導が充実できる。
- ⑥ 教職員間で児童生徒の学習状況や特性等が共有され、きめ細やかな指導ができる。(校務の効率化や質の向上につながる。)
- ⑦ PTA組織の一本化が図られる。

① 義務教育学校

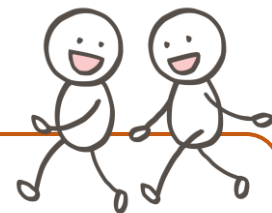
- ・ 新たな学校種 (一つの学校)
→ 一人の校長、一つの教職員組織
- ・ 修業年限:9年 (前期課程6年+後期課程3年)



○(義務教育学校に限らず)

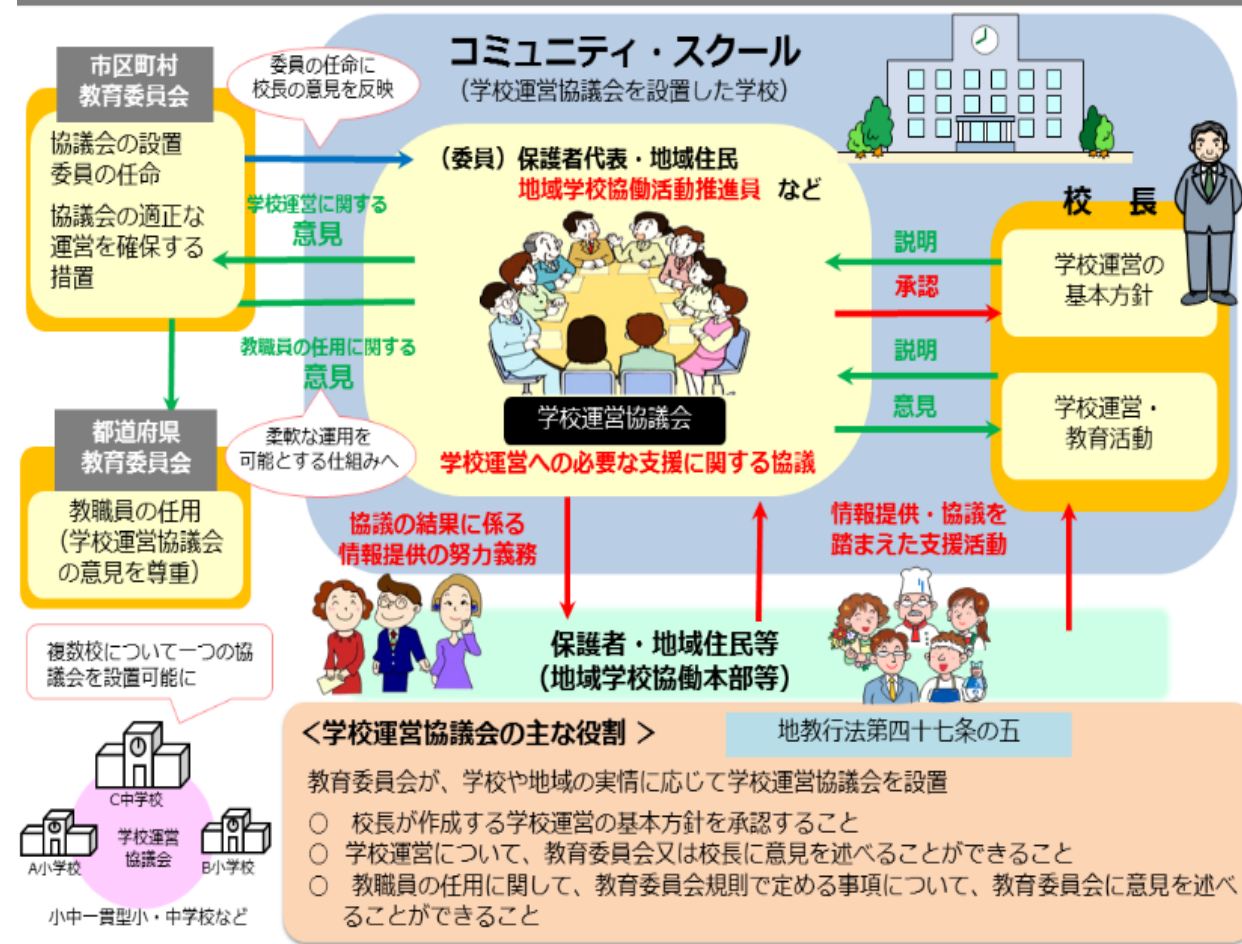
統合した場合に考える必要があること

- ① 各地区や学校の伝統や文化の継承が困難になることが考えられる
- ② 通学距離の課題 徒歩通学していた児童生徒がバス通学になることで体力の低下が懸念される
- ③ 大人の意識の問題 これまでの学校とは異なる未来の学校の姿を、こどもと一緒にイメージできるか

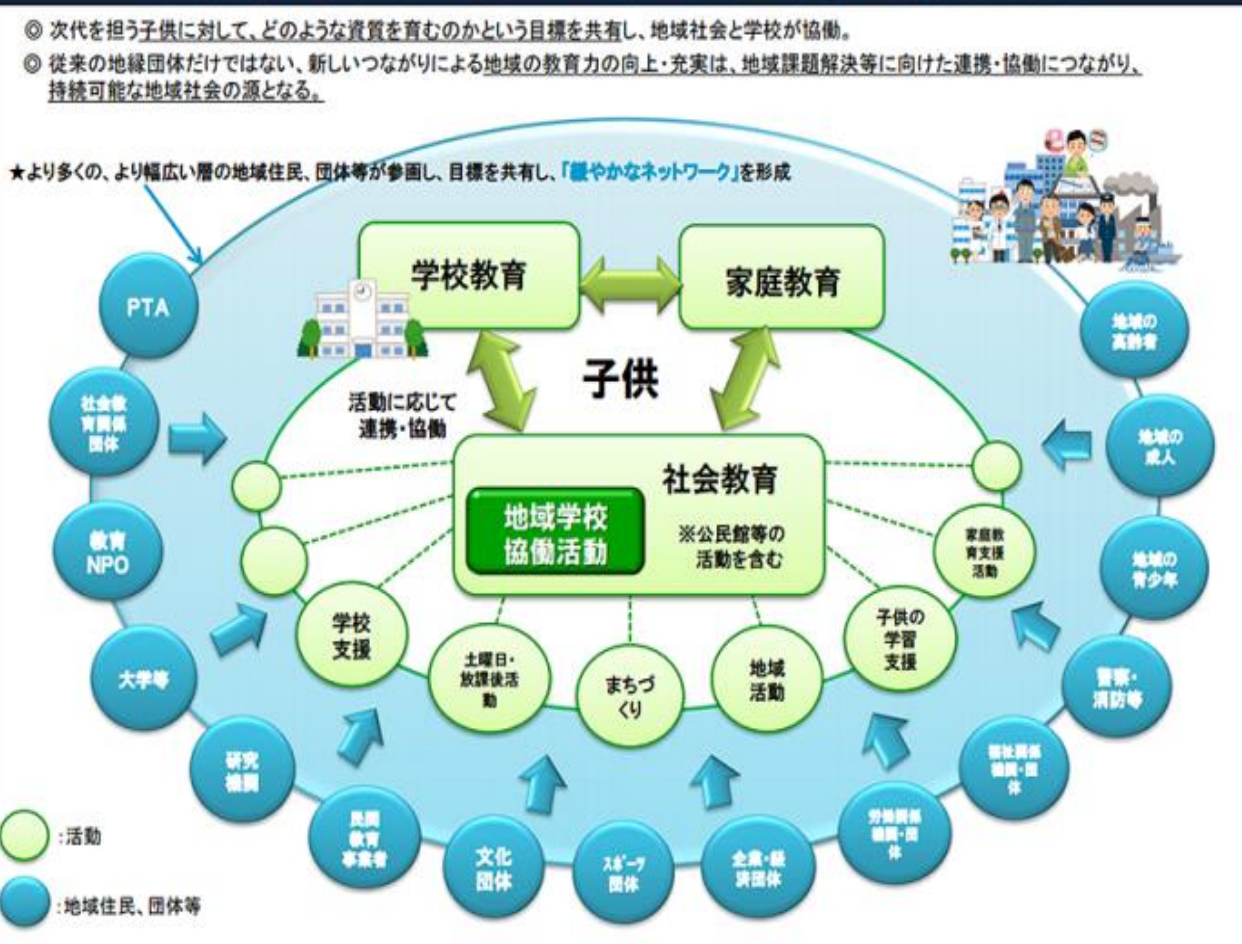


コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み(活動概念図)



コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながらこどもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。また、近年では「学校を核とした地域づくり」の拠点となる地域づくりへの発展が増えてきています。

山ノ内町立統合学校整備基本方針(案) コンセプト

コンセプト		主な内容
1	ESD教育の推進 「多様な地域資源を活用した 体験重視の学び」	・自然景観等に配慮し、山ノ内町の特徴や魅力を学べる施設整備 ・ESDを積極的に推進できる施設整備 ・学校空間全体が自然教材になる充実した施設及び環境整備 ・調べ学習等に配慮した自主学習スペースの施設整備 ・集まって学ぶ「交流空間」の整備
2	グローバル教育の推進 「外国語を習得し世界を学ぶ」	・英語教育が活発に活動できる施設整備 ・社会の変化に柔軟に対応できる施設整備 ・グローバル社会に対応した学習活動ができる施設整備 ・グループ学習や少人数学習に対応した施設整備
3	スポーツ・芸術の推進 「スポーツと芸術を楽しみ 健康的な心と体を育む」	・体育、スポーツ活動が充実した施設整備 ・軽運動等が可能な空間整備 ・健康教育が推進できる施設整備 ・文化芸術を身近に触れ、感性を育てる環境整備 ・プールは民間施設の利用を検討
4	人権教育の推進 「誰一人取り残されない 一人ひとりの学びを支える」	・バリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入 ・クールダウンスペースや相談室等の整備 ・憩いの場やベンチの設置など居場所となる小空間の設置 ・特別支援教育・インクルーシブ教育に配慮した施設整備 ・保健室や相談室と連携しやすい動線に配慮した施設整備
5	コミュニティ・スクールの充実 「地域全体で こどもたちを支える」	・地域とともに行える諸行事を想定した施設整備 ・コミュニティ・スクール推進のための施設整備 ・地域住民なども使え、交流の場となるオープンスペース ・多様な学習活動に対応できる柔軟な施設整備
6	義務教育学校 「小中一貫を進め 質の高い教育の推進」	・既存校舎を活用し、小中学校で共有可能な施設・空間の整備 ・教室に加えて、オープンスペースなど多様な学びの空間整備 ・異年齢集団との交流が行える空間整備 ・児童生徒や教職員の動線や快適に過ごせる施設配置 ・小中9年間を一貫的に学べる環境整備
7	その他 「自然環境に配慮し、安心しての びのび過ごせる学校」	・ICT教育環境を考慮した整備 ・省エネルギー化、再生可能エネルギーを活用した施設整備 ・ライフサイクルコストを考慮した維持管理しやすい施設整備 ・児童生徒と車両の動線を分離する施設配置 ・わかりやすい避難経路、避難しやすい施設配置 ・災害時の避難所として機能するための設備や施設配置

今後のスケジュール(予定)

	R7	R8	R9	R10～11
学校整備	整備基本方針策定	整備基本計画 (基本設計)	実施設計	校舎等建設工事
開校・閉校準備	学校づくり準備委員会		(仮称) 学校開校備委員会	
	統合学校設置基本方針		開校準備	
	閉校準備		閉校式典・関係行事準備	
			合同学習	
	PTA 合同役員会・CS 運営委員会			
	スクールバス通学区域検討・決定		運行計画の調整・通学体験	
	学校名決定校歌・校章決定		制服・運動着決定	
	義務教育学校の教育課程の検討		学校のグランドデザイン編成	
その他	小学校跡地利用基本方針	小学校跡地利活用に向けた調整		
		児童クラブ設置場所検討		

想定施設と特色

教室	普通教室、特別支援教室、オープンスペース、多目的教室
特別教室	ラーニングセンター（図書室）、理科室、図工室、音楽室、家庭科室、ESD教室、ICT教室、外国語教室
生活交流空間	玄関、昇降口、階段、エレベーター、 <u>廊下</u> 、児童用トイレ、多目的トイレ、手洗い所、 <u>地域連携室</u>
管理諸室	校長室、職員室、事務室、保健室、印刷室、会議室、相談室、資料室、教材室、職員休憩室、職員更衣室、職員用トイレ、機械室、放送室、用務員室、配膳室
運動施設	<u>体育館</u> 、小体育館、更衣室、体育館用トイレ、グラウンド
外構ほか	駐車場、花壇、ビオトープ、植栽、屋外遊具、異学年交流スペース、動植物育成施設、冬期耐雪スペース、その他付属建物地等

主な施設整備	山ノ内町立統合学校の特色
外 観	山ノ内町の自然・景観に調和した色・形状とする。
内 装	地元産木材を活用し、木のぬくもりのある内装とする。
普通教室	1学年30人規模学級の2クラス編成を基本に整備し、ICT教育に対応する広さを備えた教室とする。また、多様な学習や少人数学習にも対応できる工夫をする。
廊 下	弾力的な学習が展開できるよう、ワークスペースを兼ねたゆとりのある廊下（オープンスペース）とする。
ラーニングセンター（図書室）	主体的な調べ学習や異学年交流ができる環境とする。図書を身近に感じ、気軽に本と向き合える居心地のより空間とする。
体育館	社会体育施設や、災害避難時の避難所としての機能を有した施設とする。
地域連携室	地域の講師を招いたESD学習や、学習の成果を地域の方に発信する場を整備する。
環境配慮対策（省エネ化）	自然採光・自然換気などを積極的に確保し、LED照明等省エネに配慮した設備とする。 太陽光発電・地中熱利用等の再生可能エネルギーを活用し、環境負担を低減する。
そ の 他	トイレや更衣室はユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい設備を整備する。

みなさんの考えを聞かせてください

テーマ1

(地域住民として)

大人も行ってみたくなる、かかわってみたくなる学校とは、
どのような学校ですか。

テーマ2

新しい学校の開校により、空き施設となる、3小学校の校舎を、
どのように活用してほしいと考えますか。